

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3891400073
法人名	株 だんだん
事業所名	グループホーム つるかめ
所在地	西予市野村町野村2-109-1
自己評価作成日	平成27年11月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者様の今までの長い生活歴の中で、はぐくんできた家族や地域の ツナガリ や生き甲斐を出来るだけ継続しながら利用者が自分で決め身体の障害や認知による生活の障害があっても、自分の生活を利用者が選択し職員と共に成長してゆくよう笑顔で支援してゆきたい。又地域交流を図り此処で充実した日々を送って頂くよう、職員も自己研鑽しながら知識や技術の習得を積み役割を担い地域福祉の向上に努めたいとねがっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

法人では、併設するデイサービスの休日に利用し、「オレンジ倶楽部」を開き、地域の方や家族が訪れてお茶を飲みながら過ごせる場所を提供している。
自治会の常会時には、事業所の理解や協力を得られるよう、取り組みや避難訓練の状況等についても報告している。
乙亥相撲は、地元の方達にとって年の暮れの行事として馴染んでおり、入居後も出かけられるよう支援している。利用者は、屋台でおやつを買ったり相撲を見物したりした。行けなかった利用者もテレビの生中継を観て楽しんだ。
職員の意見や利用者の日常の言動、ご家族の思いをもとに介護計画を作成しており、毎月の職員会時に話し合ってモニタリングを行っている。計画作成担当者は、「今の状態に少し頑張れるようなプラン」「頑張ってみようと思うプラン」の作成に取り組んでいる。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム つるかめ

(ユニット名) かめ

記入者(管理者)

氏名 古田 康子

評価完了日

27 年 11月 20 日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 利用者さまには家庭的で落ち着いた生活を実感できるように福祉、医療と連携し理念を理解し笑顔で介助、家族様にも安心して何時でも面会に来ていただける暖かい施設を目指している。	
			(外部評価) 「選択する自由と安心できる生活を送れる」という理念をつくり、毎月目標を立てて実践につなげている。12月は「外に出て冬を感じる」と目標を立てていた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の方や子供達と自然な交流もあり、中学生の職場体験や地方祭、イベントになじんでいる。亥の子、祭り、マラソン、地区祭など昔からイベントには3年目にて地域のインフォーマルな支援として活用している。	
			(外部評価) 自治会の常会に参加して、事業所を知ってもらえるように取り組んでいる。法人では、併設するデイサービスの休日に利用し、「オレンジ倶楽部」を開き、地域の方や家族が訪れてお茶を飲みながら過ごせる場所を提供している。近所の方から野菜のおすそ分け等もあり、又、立ち寄ってくれて、庭のベンチで利用者とおしゃべり等するようなこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 当施設では、施設内や屋外の生活を見て頂き認知症の病気が有っても普通の生活が出来て楽しめている事、周囲は高齢者住宅が多く違和感なく馴染んでおられます。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>各月の委員会では施設生活の実情を見て頂き、市や地域の福祉支援者、家族などにより新しい情報などを頂いたり改善点などの意見を頂き取り入れています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>会議には、利用者、ご家族、民生委員、地区の役員等の参加があり、事業所からは、利用者・活動について状況報告を行っている。年に1回は、利用者、ご家族、地域の方が交流できるような会議を設けている。</p>	<p>今後もさらに、会議にいろいろな立場の方に参加してもらえよう呼びかけ、事業所サービスについての意見や希望を聞いてほしい。会議を活かして地域とのつながりをより深めてほしい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>市の説明会、研修会には受講し仕組みや変更等の詳細を理解し利用者の生活に支障ないよう協力し関係を求めている。運営推進会にも参加して頂き改善にも前向きに取り組みたい</p> <p>(外部評価)</p> <p>野村町社協主催の「元気な高齢者を活かせる祭典」時には、高齢者のファッションショーや介護施設利用者の作品展示があり、事業所からも利用者がつくった灯籠を出展し参加した。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>自由に外出が出来るよう門扉が無く常時にて利用者の員数確認が必要。利用者の行動には遠くから見守りのみで支援している。所内の学習会などで学んだり、職員で介助の際にも拘束しないか話あいながら介助している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ひとりで外に出かける利用者には、止めるのではなく状況を見極めながら、さりげなく同行して支援している。ベッドからの立ち上がりに不安のある利用者には、滑り止めマットとセンサーを設置して転倒防止に気を付けている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員研修や管理者等と話を聞きながら援助の方法や利用者の心身を判断しながら介助し、毎日の申し送りなどでも安全で安楽に過ごし虐待などについては気づいたら話し合う。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 重度になり判断力が無くなり地域支援や家族の考えに添うよう日頃より一緒に学び利用者にも有利になるよう基本知識として学習している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 初回訪問や施設間での情報を共有しながら入所前には利用者の要望や選択を聴きながら十分に傾聴し安心してもらえるよう説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会や部落の常会、見学においても機会を作り説明や意見、疑問あるいは施設の理念等を分かりやすく説明して地域の方には日常の生活の中で意見や要望をお聞きするようになっている。 (外部評価) 月1回、写真や体調、様子等を書いた利用者個別の通信をご家族に送付している。年1回、家族会を行っており、一緒に食事等しながら要望や意見を聞いている。ご家族からは、「なるべく状態変化の少ないように、転倒をしないようにしてほしい」との要望が多いようだ。遠方のご家族とは、電子メールで情報をやり取りするケースもある。	ご家族とともに利用者を支えていけるよう、ご家族と一緒に支援したり、活動するような機会を工夫してはどうだろうか。「利用者が安心できる生活」の実践に向けても、ご家族との協働に取り組んでほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			毎日の申し送りや意見、利用者に関すること以外でも事業者の説明や個人面談等を通して意見や要望、疑問も含め答えるようにしている。何時でも利用者や家族が安心して過ごせるように支援する。	
			(外部評価)	
			毎月の職員会時には、職員が順番でテーマに沿って発表し、みなで勉強している。たとえば、歩行困難になった利用者については、福祉用具や入浴の仕方等、利用者にとって一番良い支援は何か、職員で話し合いながら取り組みをすすめている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			新人職員の指導や就業前の面会等において、当社の理念に伴い高齢社会における職員の資質向上や個人的に勤務条件などを考慮し職員が学習習得でき技術能力の向上を目指している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			経験や仕事の意欲も様々の中で自己での研修者には研修費の負担や推奨をしながら、又個人で研修目標をたて発表の機会がある。職場の経験の中から疑問の解決など自己研鑽し勤めていく。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			サービス機関の行う研修会、行政の説明会などに参加し受講者間の交流等しながら介護の技術や働く事の工夫をしてゆく。向上心をめざし安心して生活を送って頂くための工夫はエンドレスです。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			まずは笑顔で迎えコミュニケーションをとり、その中から要望に耳をかたむけ役割と生きがいを持ち安心して生活頂くよう初期にはどの場面も笑顔で支援する。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	本人が生活し過ごした中で、施設において出来る事、出来ない事不自由を感じている事の把握、不安を取り除き可能な限り利用者自らの選択や要望の達成に努める。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)	残存能力を見極め自立支援に努める。本人の能力や生活歴を大切に自分らしく楽しく過ごすため、不安の解消など情報を活用し笑顔で対応する。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価)	調理のしたごしらえ、洗う、皮はぐ、食器拭き、洗濯物たたみなど本人の出来る事(昔はやっていた事)など出来る事を一緒に達成感や生きがいになる事を職員とともに行う、職員も共に成長したい。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価)	本人希望の時は電話対応の支援し、面会時は家族と一緒にお茶をされる。家族だけのコーナーで過ごされるようにしています。家族の声も傾聴し支援。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価)	家族には毎月の情報を文章で伝えている、地域のイベントや以前の住所地の情報などを伝え家族と自宅に帰る機会をもって頂くよう支援。	
			(外部評価)		
				乙亥相撲は、地元の方達にとって年の暮れの行事として馴染んでおり、入居後も出かけられるよう支援している。利用者は、屋台でおやつを買ったり相撲を見物したりした。行けなかった利用者もテレビの生中継を観て楽しんだ。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	ホール内での作業で出来る事を増やし、周囲と協力しながら達成感を味わう。合唱や運動会など出来る事はまだまだ沢山有り、入所前の家族のように支え合う生活を支援
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	退所者には新しい施設に面会に行き安否の確認や新地の情報を持つ・家族にお会いしても以前と同じく悩みや情報をお聞きする。退所された方の家族の訪問もあります。
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)	初回訪問でえた情報をもとに家族や住所地の住人の話も聞いており趣味や趣向生活歴を活用でき生きがいのある生活の支援。
			(外部評価)	
			月1回の職員会時には、それぞれが担当する利用者の状況、状態を報告して職員全員で話し合っている。職員は、日常会話の中のさりげないフレーズや顔色、表情からも思いを汲み取るように心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)	病気や家族の事情で施設の生活となっても以前と変わらない生活力を発揮でき此処で生きていく能力を生かし周囲と楽しく元気に生活出来るように家族の応援も有り難い。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	数十年の生活歴の大切な物を維持し新しく変わる所は変わって施設の住人としての楽しみや不便な点の改善がよう、本人本意の支援をする。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 関係者による聞き取りから施設生活に必要なと思う事は計画に盛り込まれ、安全安楽の実践、リハビリの実施、季節や地域の環境を活用し、毎月の担当者会、カンファレンス、モニタリング等を実施し変更もありうる。</p> <p>(外部評価) 職員の意見や利用者の日常の言動、ご家族の思いをもとに介護計画を作成しており、毎月の職員会時に話し合っでモニタリングを行っている。計画作成担当者は、「今の状態に少し頑張れるようなプラン」「頑張ってみようと思うプラン」の作成に取り組んでいる。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 気づいた後、申し送りや支援経過に記し、全職員が同じ目標の支援や改善が出来るようにし緊急時などはカンファレンスを開催し援助の変更もある。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 本人や家族の要望に添うためアセスメントの情報、モニタリング等を開催し体調の変化精神面で本人や家族の要望に沿って地域資源の活用を踏まえるよう取り組んでいる。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 展覧会等に作品を出したり、ホタル祭りや盆踊りの参加、地域子供の訪問、学校行事など地域と共に参加し協力いただき感謝の気持ちを伝えている</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 緊急時、定期受診や受診後の家族の報告、連絡をしながら家族と共に利用者を観ていく事を大切にしている。家族と同じ歩調で利用者を支援することが理想でもある。	
			(外部評価) 月1回協力医の往診があり、相談、対応してもらっている。これまでのかかりつけ医への受診を希望する場合は、職員が付き添ったり、送迎等して支援している。気になる症状がある時には、早めにご家族に相談して対応している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 報告、連絡、相談を欠かさず看護師の助言や協力をもらい日頃から早めの対応を心がけ、毎日のバイタル時の観察も重要である。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院中の面会は看護師から詳しい情報の報告をもらい面会に行き家族の支援もする。病院関係者から直接の関係作りは看護師が担当している。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族には今後の病状を医者から説明で施設で出来る限りの支援や家族の協力等職員と共に取り組んでゆく旨を伝え利用者を最後まで看取る、職員のチーム対応の編成、カンファレンスの開催の内容を伝える。家族と職員のチームワークの確認をする。	
			(外部評価) 入居時には、利用者が重度化した場合のあり方について希望を聞くようにしている。現在は、ほとんどのご家族が「最期は病院で」と希望しており、重度化した場合には再度希望を確認している。今年、初めての看取りを支援した事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)	毎月の緊急時の対応、訓練が実施されマニュアル等もあり、訓練や実技もあるが実際に事故が発生したら落ち着いて行動できるか不安もある。
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)	避難場所や避難方法は毎月の訓練で出来ると思う、運営推進会議、部落の定例会で地域の協力の意志表示やアドバイスも受けている。
			(外部評価)	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)	基本的には出来てと思うが、夜間の利用者の変調による行動や不穏で声掛けが通じなくなるように感じる。常に人生の先輩的存在である事を念頭に尊敬の声掛けをする。
			(外部評価)	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)	選択できるものは提示し選んでもらうように介助している。言語表現の出来ない方も同じく手振りや表情表現を見てゆくようにしている。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)	他の利用者に負担をかけない限り出来るだけ希望に添うようにしている。希望の行動が出来ない方は職員と一緒に興味や能力の活用で家事、数字検定等を行う。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価)	その人らしいお洒落で清潔な装いに準備、着衣の支援、自分で出来ることは協力してもらい、家族の希望等も面家時に聞いておく。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価)	準備、調理、片づけに手伝ってもらい、献立の希望や味付けなど利用者の働く姿と笑顔が見られる。	
			(外部評価)		
				行事や誕生日会の日には、両ユニット合同で食事を楽しめるように支援している。献立は、ユニット毎にその日調理する職員が立てており、週3回は魚の日と決めて、近所の魚屋から旬の魚を届けてもらっている。調査訪問時は、野菜の下ごしらえや下膳等をしている利用者の様子がみられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価)	一人一人の健康を損なわないよう量や食材形態の、配膳の色、形、嚥下、咀嚼状態をカンファレンスで統一しておく。見た目や味その日の健康状態の観察も重要、	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価)	毎食後の口腔ケアはしている、自力で口腔ケアの出来る方は声掛けでも拒まれることが多い。食事の毎には出来てない方もいる。自分の歯は無くても介助や見守りで支援。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			排泄チェック表を活用し定期的に声掛けし排泄を促している。失禁もなく時間的に利用者の体調の管理ができパット、パンツのゴミの減量にも対応したい。	
			(外部評価)	
			目の不自由な利用者の方の居室にはポータブルトイレを置き、職員が見守り等して支援している。車椅子の利用者には、トイレ使用中は職員は外で待ち、物音等したら声をかける等して介助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			水分補給に心がけ便秘が続けば緩下剤を医師の指示で服用するが、ヨーグルト、お茶、野菜、体を動かすことで便秘予防に取り組んでいる。	
			(外部評価)	
			定期的に入浴して頂き利用者の機能に合わせた入浴介助を行う。個人の希望や通院、排泄も様々で入浴方法も変わるが、健康、清潔、体調機能の回復等様々の効果もあります。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			定期的に入浴して頂き利用者の機能に合わせた入浴介助を行う。個人の希望や通院、排泄も様々で入浴方法も変わるが、健康、清潔、体調機能の回復等様々の効果もあります。	
			(外部評価)	
			浴室にリフトを設置しており、各ユニットで時間や順番を調整して支援している。つるユニットは、利用者それぞれに入浴曜日を決めて支援している。かめユニットは、利用者の希望を聞きながら週2回入浴できるよう支援している。浴槽への出入りが不安な方には、利用者、職員両方に腰ベルトを装着して、ベルトを握って安心して入浴できるよう取り組んでいる。最近、浴槽内に手すりを設置した。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			利用者の体調の変化に応じて対応している。血圧等の不安時は常時見守り、排泄、カーテン、換気、照明等の利用で熟睡できる環境を作るようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 1日分の薬のセットをし介助者、確認者の役割分担と変更時や急変時に服用出来るよう指示、申し送りを確実にしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 出来る範囲の料理の手伝い、洗濯物たたみなど無理のない程度にやってみて、歌、塗り絵、切り絵、ドリルなど能力を生かし達成感を感じ得意分野で意欲を発揮できる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 無理のないよう外出できる支援しているが帰宅願望の方は家族の許可など無理な事が多く、出来るだけ全員が同じように楽しみが味わえるようにと外出の機会を作る、外食、家族会などで対応し家族の絆など体感して頂く。 (外部評価) 敷地内のお地藏さまや近所の神社へお参りができるよう出かけている。庭に出てプランターに花を植えたり、隣接する畑で職員と一緒に野菜作りをしている。	新たに、車いすを複数乗せられる車を購入し、外出がしやすくなったようだ。利用者と一緒に歩きたいところや懐かしい場所等について話し合いながら、出かけてみるような取り組みを工夫してはどうだろうか。支援を通じて利用者の自信や意欲向上につなげてほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者の体調の変化に応じて対応している。血圧等の不安時は常時見守り、排泄、カーテン、換気、照明等の利用で熟睡できるか環境を作るようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の希望がある時など、ご家族に連絡を取り電話で会話を楽しんで頂く。家族により毎週の面会や外出もあり感謝しています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>共用のスペースには季節ごとの花が活けられ心癒されています。又、壁画は季節ごとに利用者、職員が協力し飾りつけ、次の作品の希望も取り入れます。</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関やベランダは屋根付きで、オープンスペースになっており、利用者が植えたパンジーのプランターを配していた。玄関や廊下には、畳や木のベンチを配置しており、利用者はそれぞれの場所でおしゃべりをしたり、外を眺めながら過ごしている。玄関には、先日の乙亥相撲のスナップ写真や七夕の折の利用者の浴衣姿の写真が飾ってあった。又、利用者作の灯籠を飾っていた。調査訪問時には、ご家族が利用者のひ孫さんを連れて来られて居間で談笑していた。又、他の利用者も子どもをあやしたり、笑顔で見守っていた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>共用空間(ホール)に皆で集まり、各自の思い思いの事をして過ごします。が、時にはリハビリ、切り絵、合奏、誕生会など合同の楽しみもあります</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>衣類など区別はきちんと収納、布団の整理もできている。高齢化、機能低下等で居室での整頓が出来なく介助員が整頓。出来る方は見守り支援をしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者の視線から外が見渡せるよう、窓が低めに設置されている。ベッド、ダンスは備え付けになっており、テレビや椅子を持参している方があった。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ユニット間の交流がもて自由に交流も出来ます。安全に動ける人、出来る人は少ないがその人の能力や安全性を見守りしながら施設の理念に合った開発をしてゆきたい。</p>	